

加藤咄堂 かとう だつどう 佛教學者。明治三年十一月、二百丹波國龜岡生れ、昭和二十四年四月、二百妓（二七〇—一九四九）。本名熊一郎。別號三東一門樓、咄堂居士、黒山鬼窟。英吉利法律學校卒。佛教學を修め、新佛敎運動に参劄。中央敎化團體聯合會理事、上宮敎會會長。

著書『大聖釋迦』（本名、明治二十四年九月、千、二百付刊、護法書院）、

『佛敎概論』（同、明治二十五年一月、千七百護法書院）、 『時文軌

範』（作文秘訣）（明治二十五年十一月五日、上田屋支店）、 『智慧

眼』（合著、無何有郷人編、明治二十六年十月、六、且京都・佛敎公論社、

西村法藏館發賣）、 『佛敎敎理要論』（本名、明治二十六年七月十五

日佛敎文學社）、 『佛家文人傳』（明治二十七年五月、千七百日益友

社）、 『内地雜居佛敎信徒の心得』一名内地雜居と佛敎』（再版・明

治二十一年九月五日顯道書院）、 『破邪降魔劍』（明治二十一年十一月、

月五日通俗佛敎館）、 『排耶蘇教』（明治二十一年七月十四日通俗佛

敎館）、 『婦女の敎訓』（明治二十五年四月、二十日森江書店）、 『單

人の修養』（二版・明治二十七年七月十五日森江本店）、 『冥想論』

（五版・明治二十八年二月十五日東京亞堂書房）、 『禪觀錄』（峯上之光

共著、明治二十八年七月五日井瀧堂）、 『冥想朝思』（明治二十九年

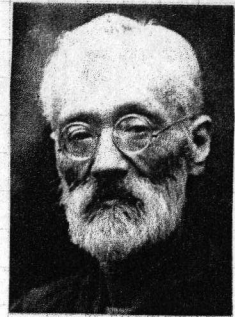
三月、二十一日東京亞堂書房）、 『冥想暮思』（明治二十九年二月、二十一日

東京亞堂書房）、 『男男子學生氣質（附學生消夏法）』（合著・新八公論社

一高島大圓編、明治二十九年二月、二十九日井瀧堂

書店）、 『修道講話』（明治四十年二月十五日井瀧

瀧堂）、 『心の研究』（明治四十一年七月十五日森



江書店）、 『讀書法（附録「社會敎育論」）』（明治四十三年四月十

- 五日東亞堂書房「唯堂叢書」()、可台警錄 (明治四十三年四月十八日)
- 日東亞堂書房「唯堂小品」()、日筆と舌 (明治四十四年十一月六日)
- 丙午出版社、揚紀元評註 和知譯維摩經講話 (和譯、明治四十五年一月十二日丙午出版社)、通俗講話の理論及方法 (大正元年十月一日丙午出版社)
- 十日丙午出版社、通俗國民性と宗教 (大正二年六月二十一日中央書院)、御即位式勅語並義 (大正五年四月二十一日明誠館)、向上の意氣 (大正五年六月十日泰山房)、聖八方禮經物語 (大正六年六月二十日森江書店)、演說法講話 (大正六年九月二十日水野書店)、心の心しき (合著・愛友會編、大正八年十月一日明文堂)、生きんとする努力 (大正八年十一月二十五日大鏡閣)、民衆と官傳 (大正九年十月五日實業之日本社)、十七憲法講話 (大正九年十一月十日丙午出版社)、冥想論 (大正十年五月二十日東亞堂)、人を知られ (大正十一年二月十五日極光社)、自治民政と佛教 (大正十一年一月八日丙午出版社)、死生問題 (大正十二年二月十日丙午出版社)、觀堂經講話 (大正十二年十一月十七日丙午出版社)、現代社會問題文化大學上講 (合著・長田曉之編、大正十二年二月二十日維新社、裕滿堂出版部)、精神講話時代公觸れ (大正十二年八月二十五日丙午出版社)、民間信仰史 (大正十四年九月十七日丙午出版社)、加瀬秀治翁 (昭和二年五月十九日上海教會)、教育勅語の現代的考察 (昭和五年十月十一日精神社出版部)、基督論戰 (合著・尾島真治編、昭和七年十月十一日信賴舎)、都市教化留意要項 (昭和八年七月二十日中央教化團體聯合會「教化事業調査會報告」別冊)、報知講壇 (合著・報知新聞社)

- 編、昭和九年四月五日報知新聞社）、『新話術』（合著・社會教育會編、昭和九年五月二十五日社會教育會、社會教育會館發賣）、『佛教とは何ぞや』（昭和九年十一月二十五日大東出版社）、『讀書と修養』（昭和十年十一月五日春潮社）、『偉人の教訓』（昭和十一年一月一日社會教育協會「民衆文庫」）、『浮世哲學』（昭和十一年四月二日實業之日本社）、『八廿生活と私生活』（昭和十一年七月十五日社會教育協會「民衆文庫」）、『運命の解剖（吉凶禍福の原因調査）』（昭和十一年十一月二十日大東出版社）、『修養講演集』（合著・法話會編、昭和十二年五月五日法話會、交通新報社）、『日本佛教の概説』（東京帝國大學佛教青年會編、昭和十二年七月十五日三省堂「青年佛教叢書」）、『觀音信仰史』（昭和十五年八月十九日有光社「觀音全集」）、『日本風俗志』全四冊（一・昭和十六年七月十日、二・九月二十日、三・十月二十日、四・十一月十五日大東出版社「大東名著選」）、『働くは人』（内題「職域働くは人」昭和十八年五月二十五日精細社）、『禪と生活―禪入門の書』（昭和二十二年三月二十五日輪涼書店）、『言論の常識』（昭和二十四年五月五日大東出版社）等。

